

教科用図書調査研究報告書

教科・種目名	特別の教科 道徳	種類	8種
--------	----------	----	----

(1)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	すべての内容項目を取り扱っている。 巻末に、付録「つながる 広がる」のページを配置し、道徳の学習で考えたことを生かしたり、郷土や我が国の良さなどについて理解を深めたりする工夫をしている。 巻末に「学習のふり返り」のページを配置し、学習の記録や学期ごとのふり返りができるように工夫している。	すべての内容項目を取り扱っている。 本冊と別冊「活動」によって構成されている。別冊「活動」は、内容項目ごとに編成され、本編に掲載されている読み物に関する発問、一層考えを深めるための活動や資料などによって構成されている。 本冊や別冊「活動」の巻末に、1年間の学習をふり返ることのできるページや、家庭との連携を図ることのできるページを配置している。	すべての内容項目を取り扱っている。 本編では2時間で扱ってもよい教材を複数配置するとともに、本編の他にも補充教材を用意している。 巻末に、1年間の学習をふり返ることのできるページを設けている。また、「家の人から一言」の欄により、家庭との連携を図るように工夫している。	すべての内容項目を取り扱っている。 学習時期を考慮して教材を4つのまとりに分け、それぞれに重点とする視点を設定して学習を深めることができるよう工夫している。また、まとりごとに「学びの記録」のページを配置して、学習のふり返りができるように工夫している。 3年生以上では、夏休みや冬休みの調べ学習につなげる工夫をしている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	教材ごとに、自己をふり返る発問を1つ設定している。 3年生以上では、教材の内容について考える発問と、自己をふり返る発問の2つを設定している。 教材によっては、「考えるステップ」として、段階を踏んで学習を深めていけるよう複数の発問を設定している。	別冊「活動」において、教材ごとに、教材の内容について考える発問や自己をふり返る発問などを2～3つ設定している。 教材によっては、内容の理解を深めるような活動を示してから発問につなげる工夫もしている。	教材ごとに「学びの手引き」を設け、教材の内容について考える発問や自己をふり返る発問などを複数設定して、段階を踏んで学習を深めていけるよう工夫している。 教材によっては、「ジャンプ」のコーナーを設け、さらに理解や考えを深めるための役割演技や話し合い等を促す工夫をしている。	教材ごとに、「考えよう」のコーナーを設け、教材の内容やそこから考えられることについての発問を複数設定している。また、2年生以上では「つなげよう」を加えて、自己を振り返ったり自分の考えを深めたりする発問を設定している。 また、教材によっては、内容の理解を深めるような資料や活動を示してから発問につなげる工夫もしている。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫	1・2年生では教材の冒頭に、学習のめあてを示している。 3年生以上では、教材の終わりに自己をふり返ったり考えたりする発問を設定し、自分との関わりにおいて考えを深められるよう工夫している。	すべての学年で、本冊の教材の冒頭に、道徳性の視点や主題を示している。 別冊「活動」において、「かんがえよう」「みつめよう」「アクティブ」などの活動を明示するとともに、特設ページを配置し、多様な活動によって多面的・多角的に考えを深めたり自己をふり返ったりさせる工夫をしている。	すべての学年で、教材の冒頭に、学習のめあてを示している。また、後ろに「学びの手引き」を設け、めあてに沿って考えを深められるよう工夫している。	すべての学年で、教材の冒頭に、主題とともに読み物に導入する問いかけを設定している。また、後ろには、「考えよう」として、考えを深めるための学習のめあてを示している。 1～2つの教材とコラムを組み合わせた学習ユニットを複数設定し、教材で深めたことについて、コラムを通して一層多面的・多角的に考えられるよう工夫している。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	巻頭に「道徳の学習を進めるために」などのページを配置し、多様な学習の進め方を示すとともに、話し合いの約束を掲載し、主体的・対話的な学習になるよう配慮している。 教材によっては、話し合いや学級での活動を行うための「出会う ふれ合う」ページを設けている。 3年生以上では、「問題を見つけて考える」教材を設定し、身近な生活から課題意識を醸成し、読み物と話し合いの手引きにより問題解決的な学習を深めるよう工夫している。	本冊の巻頭に「道徳の学習を始めよう」のページを配置し、多様な学習の進め方を示している。 別冊「活動」により、各教材で動作化や役割演技、話し合いなどを取り入れた多様な学び方ができるように工夫している。 また、巻末には、「活動のヒント」「活動の資料」として、話し合いや話し合ったりするための参考資料を掲載している。	巻頭に「道徳の学習が始まるよ」のページを配置し、道徳開き(オリエンテーション)の時間を位置付けることにより、学年段階に応じて道徳の学習への意欲や理解を深められるよう工夫をしている。 いくつかの教材では、「やってみよう」として、体験的な活動やモラルスキルトレーニングを取り入れている。また、読み物教材にも役割演技を取り入れ、体験を通して考えを広げることができるよう工夫している。	2年生以上では、巻頭に「道徳の時間は」のページを配置し、道徳を学習するねらいや、話し合ったり役割演技をしたりするなどの多様な学習の進め方を示している。 教材の後ろに設けられた「つなげよう」のコーナーにおいて、学習したことを他に広げたり深めたりする視点を示している。
(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 すべての学年で巻末に情報モラルに関するページを配置し、落書きやゲーム等の問題、インターネットを使うときに気を付けることを取り上げている。 現代的な課題については、すべての学年で、「いじめのない世界へ」とするテーマを設定し、複数の教材をまとめて学習するよう工夫している。また、環境、福祉、防災など多岐にわたる問題を取り扱っている。	内容項目との関連を踏まえつつ、「読みものコラム」を設けて取り扱っている。 情報モラルについては、すべての学年において、本編以外にもコラムとして2点を掲載している。 現代的な課題については、いじめ問題をはじめ、安全、福祉、国際理解など多岐にわたる問題を取り扱っている。 すべての学年でオリンピック・パラリンピックに関するコラムを掲載している。	内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルについては、1・2年生ではその素地を、3年生以上ではメールやインターネットを使うときに気を付けることを取り上げている。 現代的な課題については、すべての学年で、いじめ問題や生命尊重をテーマとした教材を掲載するとともに、5・6年生では環境問題を取り上げている。	内容項目との関連を踏まえつつ、教材とコラムを組み合わせたまとりを設定して、情報モラルや現代的な課題について学習できるよう工夫している。 情報モラルについては、インターネットを使うときに気を付けることなどを取り上げている。 現代的な課題については、学年を追うごとに、いじめ問題をはじめ、環境、国際理解、福祉など多岐にわたる問題を取り扱っている。	
(5) 他の教科等との関連	巻末に、付録「つながる 広がる」のページを配置し、他教科や特別活動などと関連させてより深い学習につながるよう工夫している。 また、教材によっては教材の後ろの「つながる 広がる」ページにおいて、各教科等の関連する学習や資料を取り上げるとともに、関連する他の教科・領域等を明示している。	別冊「活動」に、多様な活動の提示やコラム、特設ページを配置し、その中で他の教科・領域、特別活動と関連を図りながら、学習を深めたり広げたりできるように工夫している。	本編以外に掲載されている補充教材などの読み物では、他の教科・領域等の学習との関連を図っている。	教材の後ろに設けている「つなげよう」のコーナーにおいて、他の教科や特別活動等とのつながりを示したり、関連する図書などを紹介したりする工夫をしている。 巻末の教材一覧表に、教科・領域等との関連をまとめて示している。	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	キャラクターを設定し、キャラクターが発問を示して学習を案内するよう工夫している。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	別冊「活動」において、学習方法を活動マークで示し、学習の進め方がわかりやすくなるよう工夫している。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けてるとともに、同一教材中に再び使用されている漢字にも振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	子ども同士の会話形式で話し合いのヒントを提示したり、挿絵の吹き出しに気持ちを考えて書いたりするような工夫をしている。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	コマ漫画風の教材や写真を多用した教材などを取り入れて、児童の感性に訴える工夫をしている。 キャラクターを設定し、キャラクターが学習を案内するよう工夫している。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けてるとともに、同一教材中に再び使用されている漢字にも振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。

教科用図書調査研究報告書

教科・種目名	特別の教科 道徳	種類	8種
--------	----------	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		116 日文	280 光文	227 学研	232 あかつき
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	すべての内容項目を取り扱っている。 本冊と別冊「道徳ノート」で構成されている。 本冊には付録の教材を用意し、本編の教材と入れ替えて学習できるよう工夫している。 別冊「道徳ノート」は、本冊のすべての教材について、考えを深めたり考えを生かしたりする発問と、児童の記述欄やふり返りができる欄などによって構成されている。また、保護者記入欄を設け、家庭との連携を図っている。	すべての内容項目を取り扱っている。 同一の内容項目の教材については連続して配置し、複数の教材をつなげて学習できるよう工夫している。 付録の教材を用意し、本編の教材と入れ替えて学習することができるよう工夫している。 巻末に、「学びの足あと」として、教材ごとの学習のふり返りや学期ごとのまとめができるページを配置している。	すべての内容項目を取り扱っている。 特定のテーマのもとに、いくつかの内容項目の教材を配置したまとまりを複数設定し、続けて学習することによってテーマに関する考えを深められるよう工夫している。 巻末に、「心の宝物～学びの足あと～」として心に残った学習を記録できるページを配置している。	すべての内容項目を取り扱っている。 本冊と別冊「道徳ノート」によって構成されている。 別冊「道徳ノート」は内容項目ごとのページで構成され、児童が道徳的諸価値について考えたり学習や体験活動の感想等を書いたりできる欄などが設けられている。また、学習のふり返りや自己評価等を記入し、学校と家庭が連携できるよう工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	本冊と別冊「道徳ノート」の両方において、教材ごとに、教材の内容について考える発問を1つと、自己をふり返る発問を1つ設定している。 別冊「道徳ノート」に、自分を見つめ考えたことを書き込めるよう工夫している。	読み物の欄外下部に、教材の内容について考える発問を示し、読み進めながら段階的に教材についての考えを深められるよう工夫している。 教材ごとに、「まとめる」のコーナーを設け、学習のめあてに沿って考えたことや学んだことなどをまとめる視点や活動を示している。	教材ごとに、教材の内容について考えたり自己をふり返ったりする発問を1～2つ設定している。 5年生以上の教材では、読み物を読む前に考える活動を取り入れ、教材の理解が深まるよう工夫しているものもある。	教材ごとに、教材の内容について考える発問や自己をふり返る発問などを複数設定し、段階を踏んで学習を深めていけるよう工夫している。 別冊「道徳ノート」では、内容項目ごとにいくつかの教材をまとめて自己を振り返ることができるよう工夫している。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫	すべての学年で、教材の冒頭に、主題と学習のめあてを示している。また、後ろには「考えてみよう」などのコーナーを設け、考えを深められるよう工夫をしている。 別冊「道徳ノート」では、友達の考えを書く欄を設け、自分と比べて考えを深められるよう工夫している。 重点的なテーマを設定し、複数の教材や特設ページを合わせて多面的・多角的に学ぶことができるよう工夫している。	すべての学年で、教材の冒頭に主題と学習のめあてを示している。 また、キャラクターが様々な投げかけや感想を提示することにより、多様な考え方や感じ方に触れて自己の考えを深められるよう工夫している。	異なる複数の意見を示して、比べて考えさせたりする教材を配置している。 教材の後ろに「考えよう」のコーナーを設け、考えを深めることができるよう工夫している。 いくつかの教材では、後ろに「深めよう」「つなげよう」というページを配置し、教材についてさらに深め自分の生き方につなげて考えることができるよう工夫している。	教材の後ろに「考えよう 話し合おう」のコーナーを設け、その中で「学習の道すじ」として考える視点を示している。また、3年生以上では学習のめあても示している。 別冊「道徳ノート」には、教材と関連させた発問と記述欄を設け、自分と関わらせて考えを深められるよう工夫している。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	本冊の巻頭に「道徳の学び方」のページを配置し、多様な学習方法や学習の進め方を示している。 教材と関連付けた特設ページ「心のベンチ」を複数配置し、ソーシャルスキル等の体験的な学習、問題解決的な学習や話し合いなどを深められるよう工夫している。 教材によっては、後ろに「学習の手引き」のページを配置して、考えたり、役割演技をしたり、話し合ったりするための道筋や方法を示している。	巻頭に「道徳の時間は、こんな時間です」などのページを配置し、多様な学習方法や学習の進め方、教科書の使い方などを示している。また、道徳のノートのつくり方を例示として示している。 教材の後ろの「まとめる」「広げる」のコーナーでは、話し合ったり書いたりする活動を通して考えをまとめ、広げる視点を示している。	巻頭に「道徳の学習が始まるよ」のページを配置し、聞いたり書いたり話し合ったりする多様な学習方法を示している。 いくつかの教材では、後ろに「やってみよう」「広げよう」というページを配置し、児童の話し合いや体験的な学習に広がるよう工夫している。	巻頭に「道徳の時間はこんな時間」のページを配置し、道徳の学習の特質や学習の進め方を示している。 いくつかの教材では、教材の後ろに設けられた「学習を広げる」の中で、児童の話し合いや役割演技等の体験的な学習を通して学習を広げる方向を示している。 別冊「道徳ノート」では、心に残っている授業の記録や話し合い活動、体験活動の記録を書くページを配置している。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	内容項目との関連を踏まえつつ、複数の教材と特設ページからなるまとまりを設定し、重点化して取り扱っている。 情報モラルについては、1・2年生ではその素地を、3年生以上ではメールやインターネットを使うときなどに気を付けることを取り上げている。教材とつなげて、特設ページ「心のベンチ」でも考えを深められる工夫をしている。 現代的な課題として1年生からいじめ問題を取り上げ、学年が進むにつれて多岐にわたる問題を取り扱っている。	内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルについては、1年生からインターネットを使うときに気を付けることなどを取り上げている。 現代的な課題については、学年が進むにつれて多岐にわたる問題を取り扱っている。特にいじめ問題については、すべての学年で「みんな仲よし 楽しい学校」という特設ページを配置している。	内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルについては、全学年で取り扱っており、スマートフォン、情報、インターネットを使うときに気を付けることなどを取り上げている。教材とつなげて、「広げよう」等の特設ページでも考えを深められる工夫をしている。 現代的な課題については、1年生からいじめ問題を取り上げ、学年が進むにつれて多岐にわたる問題を取り扱っている。	内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルについては、1・2年生ではその素地を、3年生以上では巻末に特設ページを配置し、インターネットや著作権の問題を取り上げている。 現代的な課題については、3年生以上の巻末の特設ページを中心に、安全、防災、福祉などの学習を取り扱っている。
	(5) 他の教科等との関連	各学年に複数配置された特設ページ「心のベンチ」において、他の教科・領域等の学習との関連を図っている。 コンピュータやインターネットを使ってさらに学習を深めるよう促す教材を設定している。	教材の後ろに「広げる」のコーナーを設け、学んだことが他の教科・領域等へつながるよう、課題や活動のポイントを示している。	巻末の教材一覧表に、他の教科・領域等との関連をまとめて示している。	いくつかの教材では、教材の後ろに設けられた「学習を広げる」において、関連する人物や書籍、格言などを紹介している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	各教材の冒頭に、読み物等へのリード文や登場人物の紹介を掲載し、教材に入りやすい工夫をしている。 キャラクターを設定し、キャラクターが学習を案内するよう工夫している。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けるとともに、同一教材中に再び使用されている漢字にも振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	A4版のサイズを用い、読み物の欄外を発問等に活用したり、道徳性の4つの視点ごとに欄外を色分けしたりする工夫をしている。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けるとともに、同一教材中に再び使用されている漢字にも振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	A4版のサイズを用い、大きな挿絵や図表を掲載するとともに、余白を生かして教材を見やすく配置している。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けるとともに、同一教材中に再び使用されている漢字にも振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	一部にコマ漫画風の教材を取り入れ、児童が学習に入りやすい工夫をしている。 児童の読みを助けるために、漢字に振り仮名を付けるとともに、同一教材中に再び使用されている漢字にも振り仮名を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。